

必要な資料を収集し、選択、編集する力の育成

3年 総合「サトイモパーティーをしよう」

五泉小学校 小野 裕子

1 学習指導改善調査の結果から

この夏に実施した学習指導改善調査の結果を見ると、五泉小学校の子どもには次の二つの力が不足していることが分かった。一つは「主張に合わせて必要な文や資料を選ぶ力」であり、もう一つは「自分の主張を根拠をもとにして記述する力」である。そこで、これらの力を育成していくために、現在担任している3年生段階でどのような指導が必要かを考えた。そして、総合学習で、体験を取り入れながら実際に資料を収集し、自分のテーマに応じて編集していく活動を経験させることとした。特に、「ポートフォリオやメモ、ワークシートなどの活用」と「評価活動の位置づけ」を指導のポイントとして、実践を試みた。

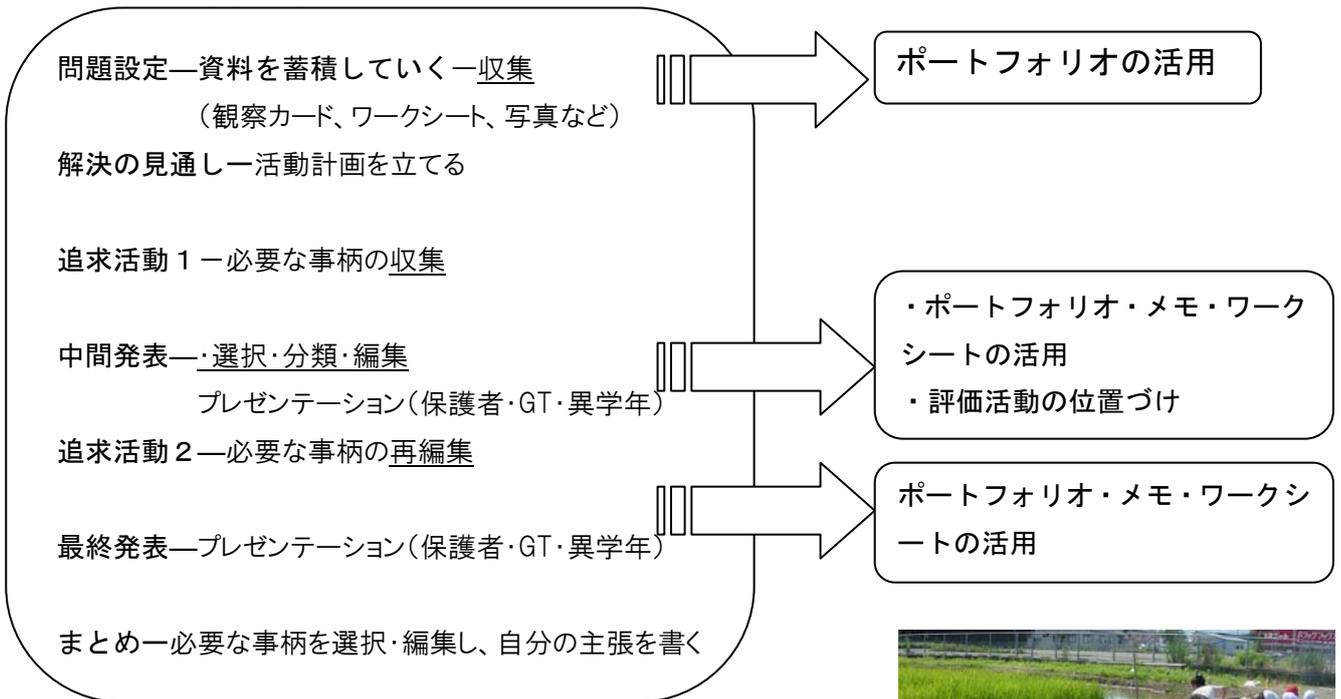
五泉小学校の子どもに育成すべき力

- 主張に合わせて必要な資料を選ぶ力
- 自分の主張を根拠をもとにして記述する力

2 実践の概要と指導のポイント

<単元の流れ>

<指導のポイント>



3年生は、総合的な学習の時間の入門期である。生活科との接続も考え、共通体験や見学をタイミングよく取り入れてきた。思いやこだわりが生まれる、やってみたくことがふくらむ、解決したいことが増えたり、広がったりする学習活動が展開できるように構想した。観察など繰り返しの体験、たねいもの観察・保存庫の見学など1回きりの体験、栽培活動など長期にわたる体験、様々な体験を織り交ぜてきた。また、五泉の土壌の豊かさを実感させるために、校庭で衣装ケースの中に栽培し、畑と衣装ケースのサトイモの成長の仕方を観察している。



体験や見学を通じて疑問を見つけ、整理しながら問題に高めてきた。図書資料を中心に調べ活動を展開し、調べられないことについては、ゲストティーチャーに質問するなどして解決に向かってきた。

以下に、指導に重点を置いてきたことについて紹介していく。



(1) 資料の収集—ポートフォリオの活用

編集するときに必要な情報を取り出せるように、学習にかかわるすべてのものを時系列に収集しておく。めあてカード、振り返りカード、見学カード等のカード類のほか、観察カードとともに写真も収集してきた。また、作文、パンフレットなども綴じておくことで情報を一元化しておいた。

(2) 資料の選択、分類、編集

①ポートフォリオ、メモ、ワークシートの活用

大事なことを取捨選択して編集するために、まとめの用紙を1枚に限定した。紙面を限定することで資料を選択し、大事なことを落とさないように編集する必要感が生まれるからである。また、資料の選択、分類、編集で活用したのは、ポートフォリオ、メモ、ワークシートである。学習にかかわるすべてを収集してあるポートフォリオから、大事なことをメモに書き出し、ワークシートで編集することにした。3年生は、調べ活動も必要な資料を取り出してまとめる活動も経験をしたことがない。そこで、段階的に指導をしながら進めていった。

(ア) 自分のポートフォリオを読み、調べているテーマに関して重要な部分に付箋を貼る。

(イ) 付箋のページを見て、自分の言いたいこととそれに対する根拠となることをメモ1枚に一つ箇条書きで書く。(メモの作成)

(ウ) メモを並べて一覧し、ワークシート上で分類・整理し小見出しを付ける。

(エ) ワークシートをもとにレイアウトを決め、表現方法を考える。

(オ) レイアウトをもとに、太洋紙に書く。

このような方法で、資料の選択、分類、編集を行なった。中学年段階での資料の取捨選択のため

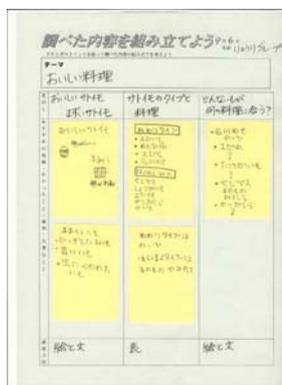
(ア) は、グループ単位で、(イ)～(オ) はグループに教師が入り教師との対話により進めた。

(ア) ポートフォリオから選択

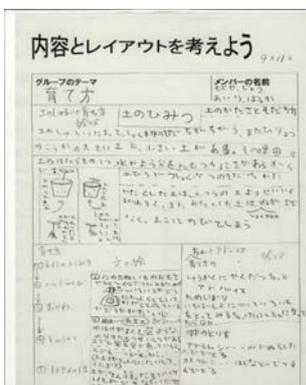


(イ) メモの作成

(ウ) ワークシート



(エ) レイアウト



(オ) 太洋紙



大事なことが書かれている資料を見つけ、キーワードをもとにまとめる。(メモにする)

メモを取り出し、ワークシート上で分類・整理し小見出しを付ける。

ワークシートをもとに、レイアウトを考える。

レイアウトをもとに太洋紙にまとめる。

テーマに照らして大事な部分を選択し編集していくという活動はとても難しく、「自分が知って驚いた情報を盛り込みがちになる」「編集内容がテーマからそれていく」等の傾向が見られた。そこで、編集内容の修正や調整を目的として中間発表を位置づけることとした。

② 評価活動（中間発表）の位置づけ

編集した内容が、テーマに合っているかどうか大事な情報を落としていないかを見直すために評価活動（中間発表）を位置づけた。サトイモ農家の方や給食センターの栄養士（専門家として）、保護者（地域の一員として）上学年の子ども（学習経験があるものとして）など参加者の編成を工夫した。追求内容のよいところや修正点・改善点を異なった視点で見つけ出せるようにするためである。参加者からは、その場で質問や意見を出してもらった。さらに、付箋にも質問や意見を書いておいてもらった。それらの付箋を整理しその後の追求活動の視点へつなげるためである。

中間発表後、「うまくいったところ・もう少しだったところ」「調べた内容について・表現の仕方について」という観点でコメントを整理し、調べ直しのポイントを洗い出した。

中間発表



コメントの整理



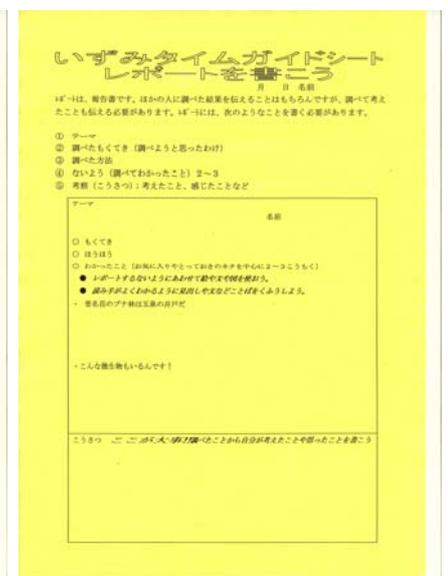
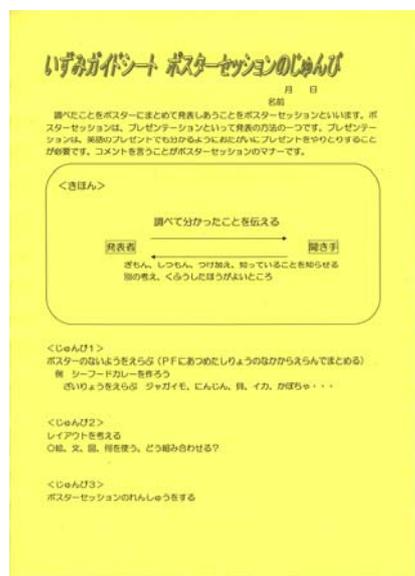
追求活動の修正ポイントを書き出す（追求方法も見直し）



調べ直すポイントを見つけた子どもたちは、ゲストティーチャーに聞いたり資料を読み直したりして、必要な情報を収集・再編集し、最終発表に向けた準備をしているところである。

(3) 学び方ガイドシートの活用

3年生は、総合学習の入門期であり、本実践はその初単元であるので、学習の節目節目で学び方を指導してきた。その際、活用してきたのがガイドシートである。調べ方、ポスターセッションの仕方、検討会の仕方、まとめ方などガイドシートを用いながら指導してきた。また、これらのガイドシートはすべてポートフォリオにストックさせてきた。その際、ワークシートは白、ガイドシートは黄色、めあてカードはピンクなど約束事を決め、活用しやすいよう工夫してきた。



3 まとめ

今は、追求活動2、情報の再編集をしているところである。11月の中旬には、最終発表を控えている。そこでは、中間発表でのまとめと最終発表でのまとめを並べて掲示し、同じ評価者を招いて評価してもらう予定である。その後、個人のまとめ（レポート作成）をする。

本実践は、まだ実践途中であるが、今の時点で有効であると感じていることは、

- ・ 中間発表を評価活動と位置づけ、その後の学習活動にいかすこと
- ・ 情報の収集・分類・編集では、ポートフォリオ、メモ、ワークシートを計画的に活用すること

である。

総合学習では、学習過程に「中間発表」や「最終発表」が位置づいている場合が多いが、その大半は、学習者が学習内容を一方的に発表するだけに終わっている。この一方向の発表を調べた内容についての質問・疑問・コメントをもらう相互評価の場とし、双方向のコミュニケーションとして成立させ、その後の学習にいかしていけるようにする。その時、中間発表が相互評価となるためには、次のような前提条件が必要だろうと考えている。

- ・ 発表者と聞き手がねらいを理解していること
- ・ 必要なリテラシーを身につけていること
- ・ 参加者の編成を工夫すること
- ・ 教師や学習ボランティアが時に方向付けを行なうこと

また、教室でのプレゼンテーションというと、説明を分かりやすくし説得力を高めるための道具として視覚物を作成し発表する場合が多い。しかし、教師は視覚物を作る時間は保障しているが、プレゼンテーションの構成を考える時間を十分保障していることは少ない。そこで、本実践では、プレゼンテーションの構想を考え、紙面の構成を考える活動を段階的に指導し、活動時間を確保した。まだ、情報の編集が十分であるとはいいがたいが、どのように編集していくかは経験できたように思う。

そして、その時に、学習物を収集しておいたポートフォリオがとても役に立った。必要な資料を取り出して一覧にしたり、グループ化したりする編集活動には、「綴る」という形態のノートより「綴じる」というポートフォリオのような形態のほうが活用しやすい。大事な情報を抜き出したり、並べたりしやすいというポートフォリオの特徴とメモやワークシートを活用することで、3年生なりに編集を進めることができた。

学習指導改善調査の結果から、提示された資料をもとに主張にあわせて「資料を活用する力」や「根拠をもとにして記述する力」の育成に向けて取組んでみました。今回のレポートでは、自分の体験を通じた資料活用や編集を提案してみました。改善すべき点や課題がまだまだありますが、実践のその後も引き続き紹介していきたいと考えています。